

炭鉱遺産をどう活用するか。
実践を通して学ぶ計画コンへ。

「炭鉱サミット2005 in夕張」と札幌学院大学大学院



炭鉱遺産について考える一日と題して、2005年11月5日に「炭鉱サミット2005 in夕張」が開催された。当日は、夕張市をモデルに札幌圏5大学の学生による計画コンへも行われた。

最優秀賞に選ばれたのは、対象地域を歴史景観公園に見立てた札幌学院大学大学院地域社会学・マネジメント研究科によるプラン。「大学院で学んだ理論を、実践を通じて生かしてみたい」という院生6人が自主的にプロジェクトチームを結成し、コンペに臨んだ。

夕張の歴史的な背景や地元住民の暮らし等を考慮する一方、統計データを分析し、地道な現地調査も重ねたという。チームリーダー

学ぶ

北海道遺産びと



まちの誇り、その魅力を、全国へ伝える子どもたち。

「全国こども橋サミット」と北海道教育大学附属旭川小学校



川のまち・旭川を代表する名橋旭橋。その魅力を全国に発信した小学生がいる。道教育大附属旭川

想像力をふくらませながら、
先人に学ぶ、未来へつなぐ。

北の縄文CLUBの「縄文文化体験学習」



1998年に立ち上げられた「北の縄文CLUB」は、函館市南茅

部地域の縄文文化を盛り上げていく市民グループだ。会員数は約70名。年齢層も20代〜70代と幅広い。南茅部地域の発掘調査に携わる女性たちを中心に、縄文人の文化や生活に関心を寄せる人々が集まり、縄文人と同じように土器や編物を作り、体験学習を重ねている。

06年1月に体験学習した『勾玉（まがたま）づくり』では、「縄文時代の人たちが何を考え、どんな道具で、どんなふうにつつたのだろうと、想像力をふくらませながら制作できるのが楽しかった」と、参加者の嵐田美代子さん、大宮トシ子さんは声を揃える。体験メニューは、骨角器（釣り針）づくり、アンギン編み、土器づくり大会など多彩。

愛される橋があるのはとても嬉しい。今後も旭橋を大切に残していきます」と、決意を込めて語る。2人が通う小学校では、これまで「旭橋」の歴史について学習会を行ってきた。2人はインターネット等で資料を集め、サミットでの発表原稿を書き上げたのだという。いくつもの時代の中で、人々の暮らしを見つめ続けてきた旭橋。ふるさとに息づく名橋への誇りは、次代を担う子どもたちによって脈々と受け継がれていくことだろう。

「さまざまな学習を通して得た知識や技術を広く知っていただき、縄文文化の普及につとめたい」。嵐田さんから会員による、時空を超えた先人たちへの敬意と親しみは、未来へつなぐ地元の人たちの誇りでもある。